

## 平成29年度、平成30年度 千里丘北留守家庭児童育成室の検証結果について

令和元年7月

吹田市教育委員会

地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立千里丘北留守家庭児童育成室「蓮の子学級」（以下、「千里丘北育成室」とする）については、平成27年4月小学校の開校に合わせて開室し、同時に運営業務を社会福祉法人に委託している。委託期間は、平成27年4月から平成30年3月までの3年間であったが、平成29年8月に、委託業務の実施状況を評価する附属機関での審議において、事業者による業務運営が良好であるとの結果を得て、その後の吹田市の契約における適正な運用の確保を検討する委員会において承認を受け、平成30年4月から継続して5年間の委託契約を締結した。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下、「育成室」とする）の運営状況に関して、過去からの推移を含め、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

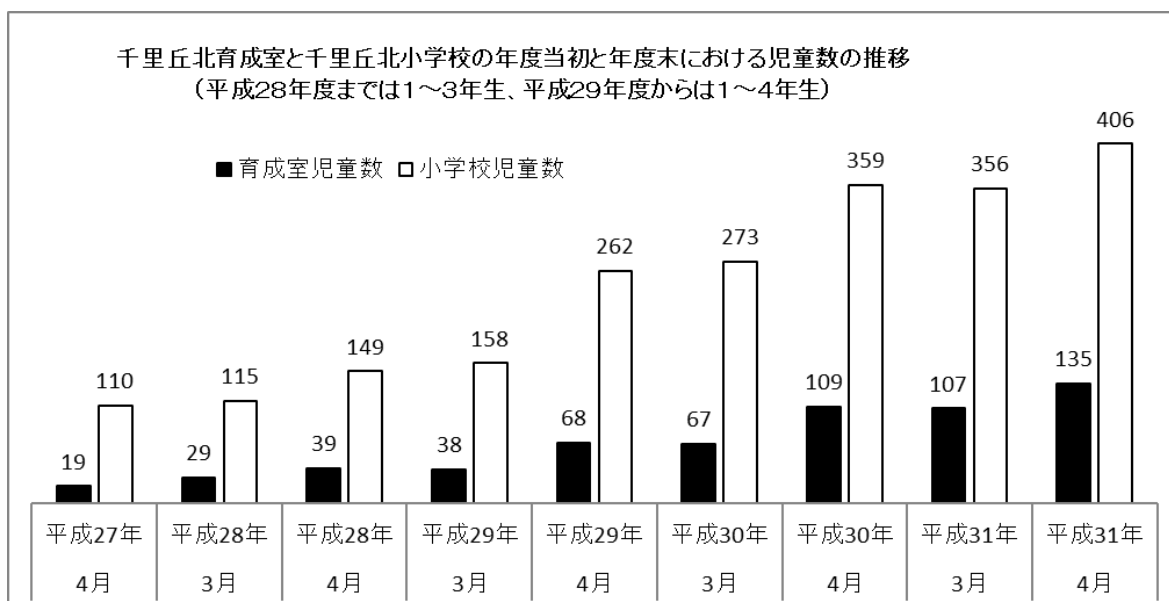
### ～検証方法～

- 1 放課後子ども育成課職員[担当事務職員、スーパーバイザー（元公立保育園保育士）]による現地視察（週1回程度）
- 2 保護者へのアンケート：委託初年度 年間3回、2年目以降 年間1～2回
- 3 事業者への聞き取り
- 4 チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

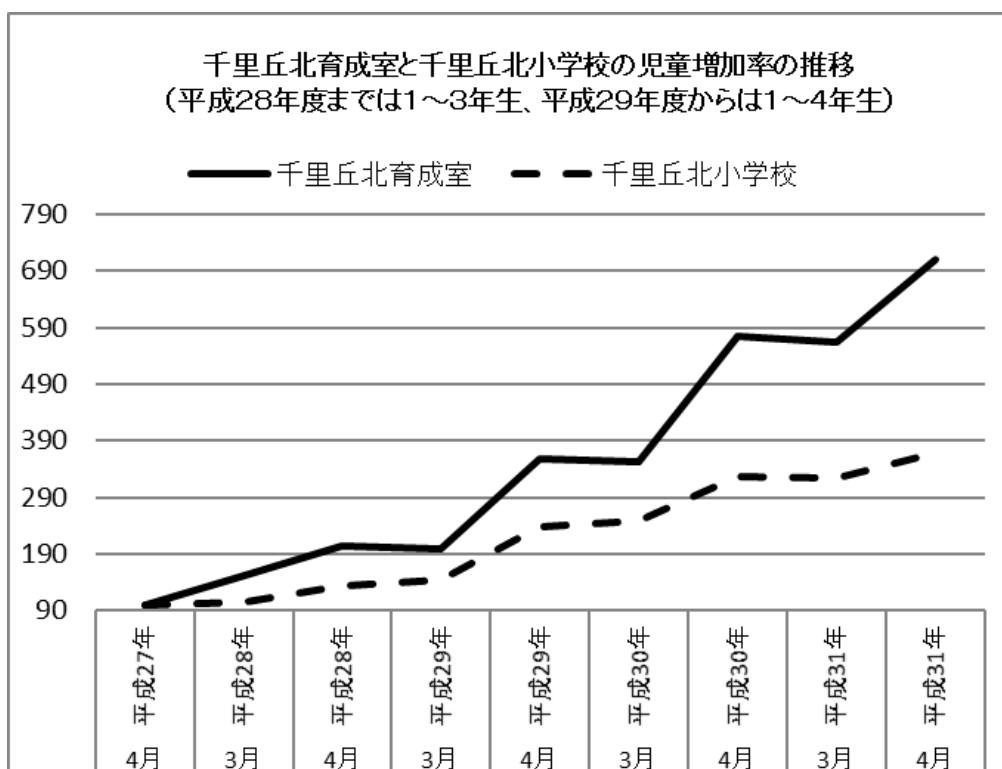
### 1 入室児童数について

千里丘北育成室については、平成29年4月時点で68人在室（学年内訳、1年：32人、2年：13人、3年：17人、4年：6人）しており、うち配慮を要する児童（障がい有児）が2名在籍している。2教室で運営しており、1室あたりの児童数は、34人となっている。平成30年4月時点では109人在室（学年内訳、1年：47人、2年：34人、3年：12人、4年：16人）しており、うち配慮を要する児童（障がい有児）が2名在籍している。入室児童数が増加したことに伴い、平成30年4月から3教室での運営に変更した。1室あたりの児童数は、36人又は37人となっている。本育成室については、今後も周辺地域の大規模マンションへの入居状況により児童数の急速な増加が見込まれており、入室児童数はそれに合わせて急増する予測が出ている。

【表 1】

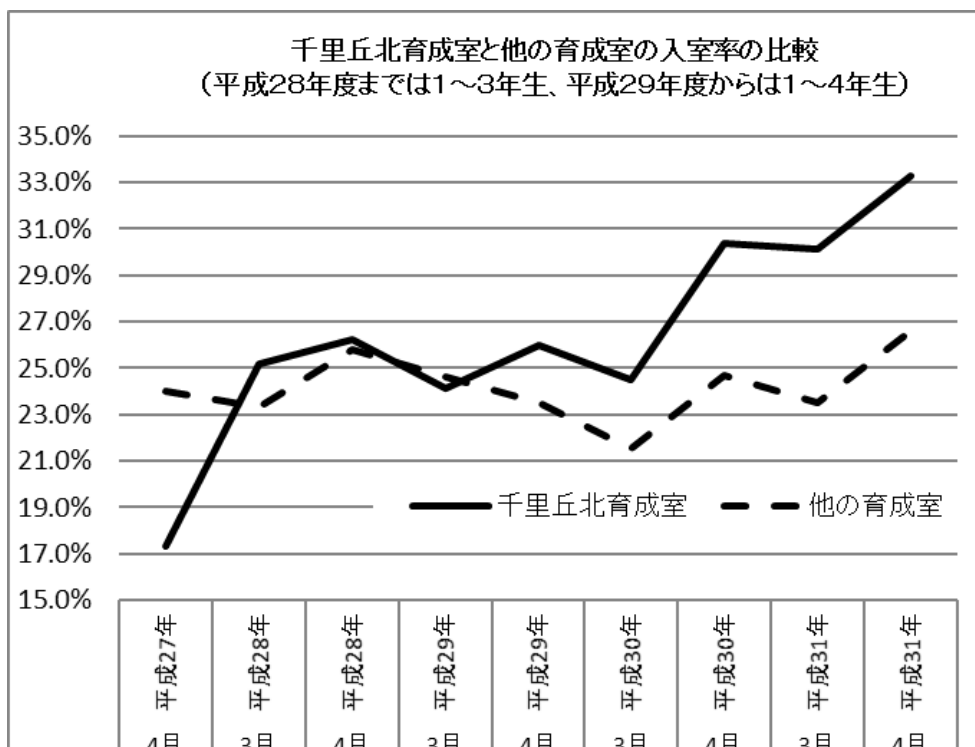


【表 2】



千里丘北育成室の平成27年度から平成30年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表3】のとおりとなっている。他の育成室との入室率（小学校児童数に対する育成室児童数の割合）の比較においては、千里丘北育成室の開室当初は他の育成室に比べ低い値であったが、平成28年度からは、他の育成室と同じような値となっており、この値からも保護者が民間事業者である現在の委託事業者に対し、運営内容に不安をもっているため、入室を控えていることは読み取ることはできない。

【表 3】



## 2 保育内容について

### (1) 日常における保育の取り組みについて

千里丘北育成室の日常の保育の取り組みとしては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては以下を挙げることができる。これらは特に目新しいものではなく、他の育成室でも行っていることではあるが、このような基本的なことを丁寧に行っていることが、児童の健全育成にとってとても重要である。

#### ア 児童の登室、帰室状況等の把握をしっかりとっている

学級ごとに育成室のホワイトボードを活用し、入室児童名のマグネットを用いて、登室、帰室状況や、早帰りの時刻、延長利用の有無等の情報を掲示している。これにより、入室児童や指導員間において、常に最新の登室児童の状況を共有し合うことができ、登室管理をしっかりと行える。

#### イ 連絡帳の確認がきちんとなされている

育成室の入り口には指導員の机が置かれており、児童が育成室へやってくると、まず、連絡帳を提出することとなっている。連絡帳は家庭と育成室をつなぐ大切なツールの一つであるため、連絡帳をいち早く確認し、児童の健康状態や早帰り（育成室を早退すること）等の予定を把握し対応することで、児童・保護者との信頼関係を損なわないようにしている。

#### ウ 班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

育成室での当番活動やおやつの時間などでは、異年齢で構成した班での活動を行い、児童の個性を尊重しながら、班で協力して、各自の役割を果たすよう促している。また、外遊びについても、指導員は児童を見守るだけでなく、ドッジボールやサッカーなどの集団遊びを組織し、児童の集団作りを積極的に行っている。

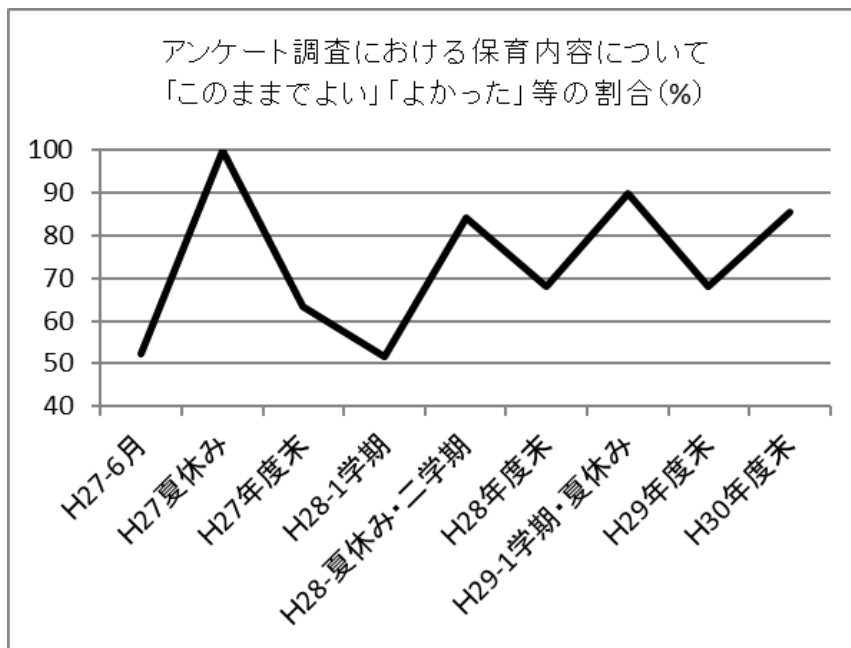
(2) 保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、これまで行った9回のアンケートの調査結果から、回答があった過半数の保護者は「このままでよい」や「よかった」としており、現在の取り組み方を変える必要はないと回答している【表4】。

なお、「H27夏休み」の評価が高いのは、入室児童数が少なく、委託事業者独自の取り組みである「そろばん」に十分時間をかけて取り組む事が出来たためと考えている。

(「4 委託事業者独自の取り組みについて」参照)

【表4】



(3) イベント（クッキング保育やお誕生日会等）について

クッキング保育は小学校長期休業中を中心に週1回程度、お誕生日会は毎月など、他の育成室と同程度にイベントを実施している。特に、平成30年度は「蓮の子パフォーマンスショー」という、児童の声から取り入れた発表会イベントを開催し、児童が趣向を凝らした出し物を準備して披露して大変盛り上がった。

(4) おやつ提供について

千里丘北育成室においては、アレルギーを持つ児童が入室しているため、「その児童のアレルゲンとなっている原材料が含まれていないと確認できた物しか購入しない」「おやつ配膳時に再度確認を行う」等の二重のチェック体制をとっている。また、

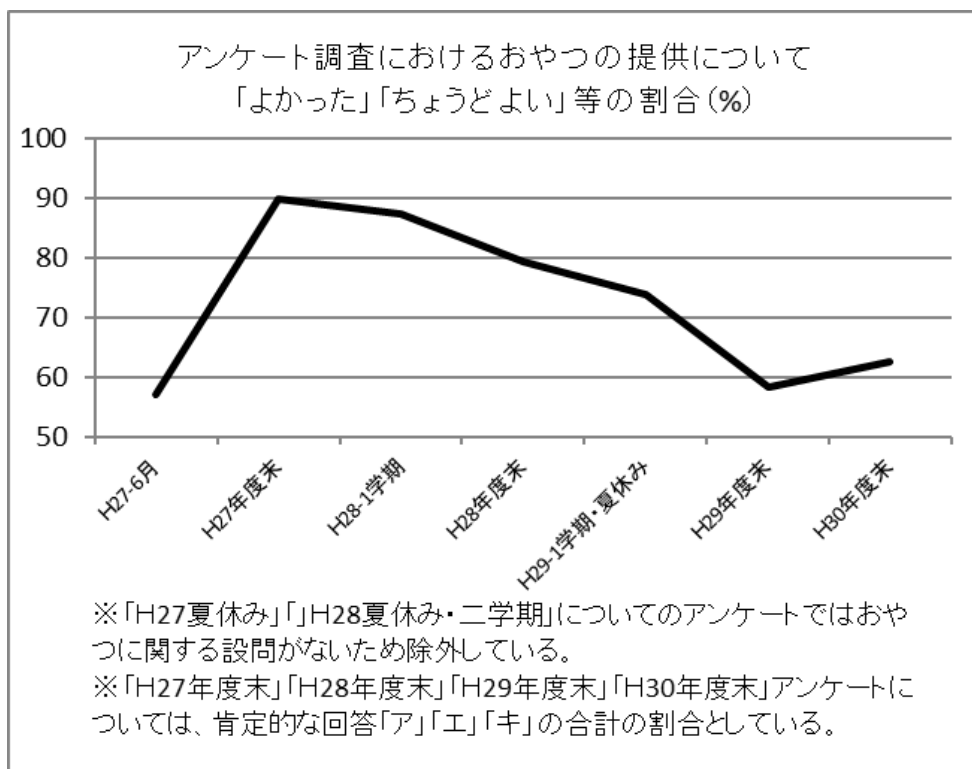
アドレナリン自己注射薬（エピペン）の講習会に参加したり、あらかじめ保護者から主治医や緊急搬送先等を聞いておく等、万一の場合に備えた対応をとっている。

また、学習や遊びの時間を児童自身で考えて活動できるように、平成30年度からおやつ提供の仕方を変更し、名前付きのボックスにおやつを準備しておき、おやつ時間帯（14時～16時）に児童が時間を決めて自由に食べることができるという方法を取り入れている。これにより、児童の時間管理能力や自主性を高めると共に、指導員が児童ごとに食べ終わったかどうかの把握を行いやすくなっている。

#### （5）おやつ提供に関する保護者の意見について

これまでのアンケートの回答では、【表5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等肯定的な意見が、平成27年度末に90%と高い評価を得ていたが、平成28年度、平成29年度と次第に低下している。平成30年度末では約4%上昇し、評価が回復しているが、平成30年度は入室児童の増加に伴って、児童が時間を決めて食べることができるように提供ルールを変更したり、児童一人ひとりの食事状況を把握できるよう、児童の名前付きのボックスにおやつを準備する方法に変更するなど、運用方法の工夫を行ったことが評価につながったものと考えられる。なお、種類を増やしてほしい、量が多かった、袋菓子ばかりはやめてほしいという回答も少数ながら存在しており、メニューや提供方法の工夫など、継続して検討してもらいたい。

【表5】



### 3 指導員について

#### (1) 指導員の配置について

平成 28 年度までの千里丘北育成室は、児童数が最大 40 名であったため 1 教室で運営していたが、平成 29 年度は最大 70 名となり 2 教室に、平成 30 年度は最大 109 名となり 3 教室に増室している。それに伴い、指導員の配置人数を毎年増員する必要があるが、近年、保育人材の需要が高まり、大変厳しい人材確保状況である中、現在の委託事業者は、同法人内で経営している認定こども園である蓮美幼児学園千里丘キンダースクールと連携することで、育成室と隣接しているという地理的なメリットも生かして、必要な指導員数の確保を行えている。

主任指導員についても、保育士の資格を有する事業者の正規職員が任に当たっており、何かある場合は必ず主任指導員が窓口となる運営が確立されており、保育内容の決定をはじめ小学校や放課後子ども育成課との調整役としての役割も十分に果たせている。

#### (2) 指導員の児童との関わりについて

現在の委託事業者は、指導員と子ども達の関わりを重視しており、そのため、市の職員が千里丘北育成室を訪問した際は、必ずと言っていいほど、指導員が子ども達の輪の中に入り、子ども達と声を掛け合っている。また、子ども達と関わる時間を十分に確保するため、連絡帳の記入については特に連絡がない場合は、サインやハンコ等簡易なもので対応することとしており、保育時間中に指導員が机で事務作業に没頭をしている場面はほとんど見られない。

そのため、指導員と子ども達との信頼関係がしっかりと構築されており、場面の切り替わりにおいても、指導員の指示がスムーズに子ども達に入っている。また、喧嘩や悪戯等により指導員に叱られた場合でも、ふて腐れて飛び出したり、指導員に反抗して暴れるような行為も見受けられない。

子ども達は指導員を信頼しており、指導員は子ども達の心をしっかりとつかんでいるため、千里丘北育成室は賑やかに声が交じり合い、楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

#### (3) 指導員に関する保護者からの意見について

平成 29 年度と平成 30 年度を対象に実施したアンケートでは、平成 29 年度と平成 30 年度の年間を通じてのアンケートにおいて指導員についての設問がある。どちらの回についてもこの設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。

実施回によって回答項目数や内容に多少違いがあるが、回答が多かった順に上位 3 つを挙げると以下のとおりになっている。

##### ○「平成 29 年度末」アンケート

1 位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」 17.6%

2 位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」 14.7%



る進行度合いの違いは解消されており、育成室内に指導者を置く必要もない。

実際の進め方としては、小学校の授業実施期間は児童が育成室に来るのが遅くなるため、1日当たり10分から15分程度の短い時間しかできず、育成室に来る時間によってはできない日もある。一日保育時はある程度時間を取ることができるので、おやつを食べてから自由遊びに移る等の、場面の切り替え時に導入することにより、子ども達もスムーズにそろばんに取り組むことができている。短い時間でも何度も取り組むことにより、計算力・集中力の向上に寄与することができる。

<千里丘北育成室で取り組んでいるプログラム>

玉井式 Ee そろばん <https://www.kokugoteki.jp/eesoroban/>

## (2) 親子参加型プログラム「蓮の子ふれあいクラブ」について

現在の委託事業者は、忙しい保護者の負担を可能な限り減らすことができるように千里丘北育成室の運営を行っており、イベントについては基本的にすべて事業者の指導員のみで行うようにしている。しかしながら、それでは家庭や保護者同士の交流の機会がないため、小学校の1・2・3の学期ごとに1回、第4土曜日の午前中を使い、親子参加型プログラム「蓮の子ふれあいクラブ」を開催している。内容については、2部構成になっており、第1部が室内外で親子または保護者同士の交流を目的としたゲームを実施している。「ドッジボール」のような定番のものから、「逃走中」などの流行のゲーム、「HASUNOKO GO」というスマートフォンのカメラ機能を使い、小学校の一部分をアップにした写真の場所を捜す独自のゲーム等、いろいろと趣向を凝らした催しを行っている。第2部は、育成室の中で、茶話会の形式で指導員が最近の様子を話したり、質問に答えたりする場を設けており、指導員と保護者の交流の場となっている。普段は忙しい保護者にとって、他の家庭と交流を図ることができたり、育成室の雰囲気を感じることができる時間となっており、とても有意義なものとなっている。

## (3) 事業者独自の取り組みに関する保護者の声について

「そろばん」の取り組みについては、千里丘北育成室開室当初から保護者に好評であり、「もっと進めてほしい」という意見も出されており、保護者からのニーズに合わせた取り組みがなされている。宿題の取り組みと共に育成室での学習活動に高いニーズがあることは間違いないが、一方で、授業から帰ってきて、また勉強をさせるのは忍びないという意見の保護者も存在しており、今後は、相反する要望のバランスを取りながら運営するという、難しい課題に対応する必要がある。

親子参加型プログラムについては、保護者の出席率もかなり高く、アンケートでもほとんどが肯定的な回答となっている。もっと多くの開催を求める声もあり、どこまで保護者の要望に応えていくかを検討する必要も生じている。



## 5 総合的な評価について

### (1) 放課後子ども育成課による評価について

放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察および事業者への聴き取りによる検証による総合的な評価として、千里丘北育成室の運営については、以下の理由により、かなり高く評価をすることができる。

- 1 育成室では、入室児童が笑顔で楽しく過ごしている。
- 2 指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。
- 3 連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
- 4 育成室の運営では、直営育成室の取り組みの内容をベースに組み立てられており、委託当初はあまり見られなかった、けん玉を使った遊びを行っている等、子ども達にとって望ましいものを取り入れていく姿勢が見られる。
- 5 保護者への情報提供の場として、懇談会を育成室全体・個人の両方開催しており、オープンな運営を心掛けている。
- 6 事業者独自の取り組みについても、保護者・児童のニーズを的確に把握しており、満足度も高いものとなっている。

また、項目を立てて記述することはなかったが、以下の事項でも高い評価をすることができる。

- 7 小学校とも連携が図られており、日常の様子や小学校の行事等の情報が共有されている。
- 8 太陽の広場（全児童対策事業）とも連携が図られており、連携会議に出席して情報交換を行ったり、運動場で一緒に遊びの活動を行っている。
- 9 怪我が起きた際にも迅速な対応がなされており、病院への搬送、保護者への連絡、小学校への連絡、委託事業者への連絡、放課後子ども育成課への連絡ができている。
- 10 台風やインフルエンザによる臨時休校や学級閉鎖についても、常に小学校や放課後子ども育成課と連絡をとり、児童に混乱が生じないように努めている。

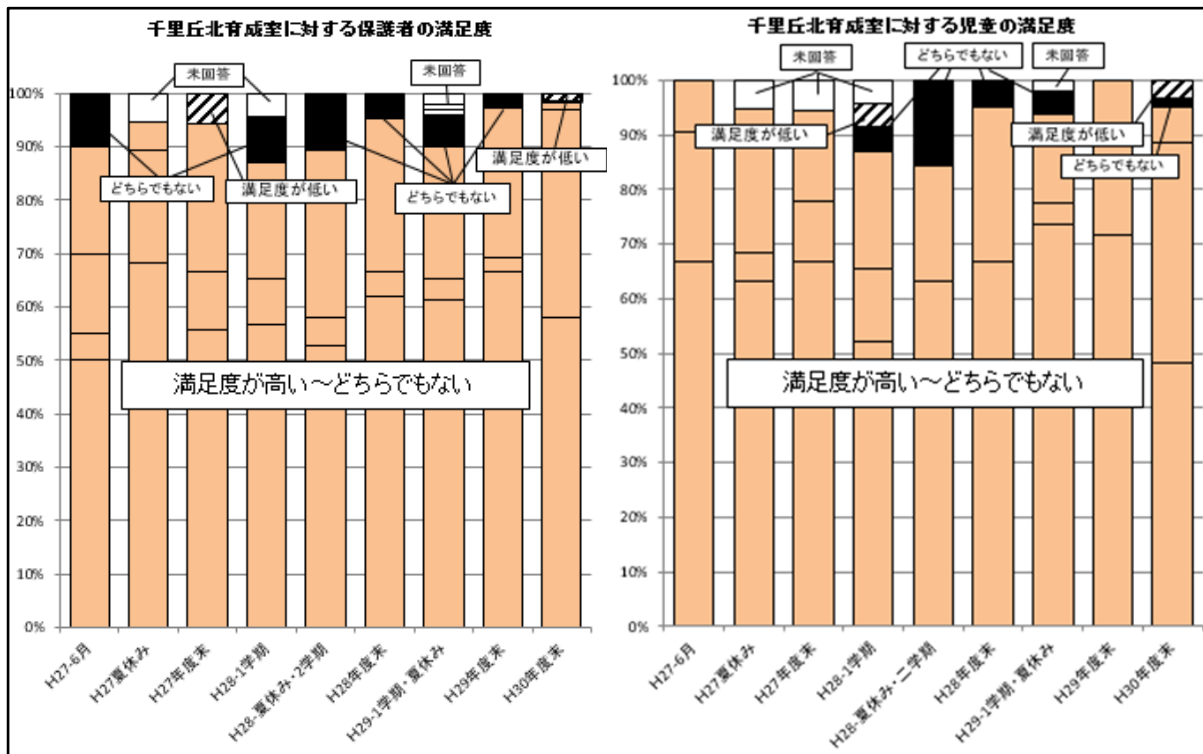
### (2) 保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって千里丘北育成室はどの程度楽しい場所か？」を聞く設問と、「保護者にとって千里丘北育成室はどの程度満足できるものとなっているか？」を聞く設問を設けている。その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える。

しかしながら、アンケートではごく少数であるが、「子どもの対応に常に追われている」「もう少し子どもの様子を教えてもらう機会があるとよい」「児童のことを丁寧に見

ている指導員もいるが、そうではない指導員もいる」等、指導員として求められるべき部分ができているとする意見もあり、全体的な評価の良さに楽観視せず、現在の高い評価が落ちてこないように、これからも注意していく必要がある。

【表 7】



【表の見方】

	評価が高い			評価が低い	
保護者	とても満足している		どちらでもない	とても不満がある	未回答
児童	とても楽しい		どちらでもない	とてもつまらない	未回答

6 終わりに

これまでの放課後子ども育成課の職員による視察や保護者へのアンケート等によるいろいろな検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者は、平成 29 年度から平成 30 年度にかけて良好な保育や育成室運営が行われていることが確認できた。

放課後の時間帯に家庭に保護者がいない留守家庭児童にとって、育成室は「第二の家庭」である。家庭では子ども達がいろいろな姿を見せるのと同じように、育成室でも様々な姿を見せている。良い姿ばかりではなく、周りに迷惑をかけるような悪い姿を見せることもある。そういった、子ども達の多様な様子をしっかりと受け止め、保護者・小学校・放課後子ども育成課と常に連携を図りながら、時にはやさしく、時には厳しく、これからも子ども達の指導に励んでもらいたい。